

人生 会議

人生の最終段階における医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと繰り返し話し合う取り組みを「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」と言い、その愛称が厚生労働省の会議で「人生会議」に決定しました。

「最期」の時までの過ごし方を考えたことはありますか？

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。**命の危険が迫った状態になると、約70%の方が「どんな治療を受けるか」「どんな生活をしたいか」という希望を伝えることができなくなると**言われています。

『自分の死』が近くなる時までに「あんなことしたいなあ」「こんなことはしてほしくないなあ」などの思いついたことを、普段からいろんな人と一緒に話しながら、少しずつ、その気持ちを残していくことをしていきませんか？それは人生の最終段階にどんな医療を受けたいかも含みます。

このような前もっての話し合いは必要ないと思われるかもしれませんが、ですが、話し合いをしておけば、万が一あなたが自分の気持ちを話せなくなった時、あなたの心の声を伝えることができるかけがえのないものになります。そして、信頼する人があなたの代わりに治療やケアについて難しい決断をする際の重要な助けとなります。家族や信頼できる方と、あなたの人生で大切にしている事などを対話する機会を持つてみてはいかがでしょうか？

※厚生労働省ホームページを参考に作成。作成にあたり、美作市上山地区のコミュニティナースの方にもご意見を頂きました。ありがとうございました。



院長の認知症コラム 認知症になっても意思表示をすることはできます。しかし、理解力や判断力が低下し、些細なことで意見が変化したり、他人や身内に誘導されやすくなり、ご本人の意思を尊重した医療やケアを行うことが難しくなってしまいます。認知症などで意思決定が難しくなる場面を想定し、「認知症と人生会議」事前に話し合いをしておくことは、ご本人はもちろん、ご家族の幸せにも繋がると思います。

